関西電力の新たな原発推進に反対し
新たなヒバクシャを作らせないために―関西電力への申し入れ

貴社は今年6月、「福井県の美浜原発1号機を最長10年運転を継続すると同時に、美浜原発4号炉建設を検討する」と福井県、美浜町に表明し、新たな原発推進に踏み出しました。「原発を基軸電源として、地球温暖化防止対策を進める」国の政策に加担して、国をあげての海外への原発輸出に積極的に参加しようとされています。そしてウラン燃料の確保のために、オーストラリアやカザフスタンなどで、新たなウラン鉱山開発にも乗り出しています。

これまで核兵器開発と原子力エネルギ―推進のために世界各地の先住民の土地でウランが採掘され、先住民に対する「植民地支配」の上に核の汚染と被曝の被害が押し付けられてきました。60年以上前に始まったアメリカ最大のウラン鉱脈のあるニューメキシコ州の先住民の居住区でもウラン採掘が行われ、先住民鉱夫や鉱山周辺住民は、肺がんや呼吸器疾患などヒバクによる様々な病気に苦しみ、多くの人々が亡くなりました。また深刻な環境汚染がもたらされ、1000ヶ所以上にのぼる廃鉱跡や製錬所周辺のほとんどでは、今も汚染が続いたまま放置されています。ウラン採掘は、先住民の環境や健康に被害をもたらしただけでなく、その被害は彼らの生活、文化全体に及んでいるのです。

私たち「ヒバク反対キャンペーン」のメンバーは21年前、この先住民居住区にある先住民の聖山マウント・テーラーで始まった、新たなウラン採掘計画のプロジェクトに貴社も含む日本の電力会社が関わっていることを知り、先住民と共に貴社に抗議を行いました。

このたび、またもや世界的な原発推進策を行っている原子力産業と各国政府によって世界各地で再びウラン採掘の動きが活発化する中で、ニューメキシコ州グランツ鉱脈のロカ・ホンダで日本の住友商事が、カナダの鉱山会社ストラスモア社と共同で新たな採掘プロジェクトを進めています。この地は先住民の聖山マウント・テイラーの麓に位置し、一部は「伝統的文化遺産」指定区域に含まれています。私たちは新たなヒバクシャを生み出すこのプロジェクトを中止させるために、アメリカ先住民代表としてメニュエル・ピノ氏を日本に招聘しました。

ウラン鉱山によるこのような被害は、米国先住民だけではありません。貴社が率先してウラン開発を行っているオーストラリアやカザフスタンなどでも、現地で同様の問題が起きているのです。ピノ氏は、ウラン採掘による被害を受けている世界の先住民を代表し、ウラン採掘をやめるよう訴えています。

私たちは、先住民にウラン採掘によるヒバクを押しつけ、そして日本の私たちには原発事故、労働者被曝などによるヒバクの危険を押し付けている原発の推進に強く抗議します。

私たちは、ウラン採掘に反対する先住民と連帯し、ピノ氏とともに、貴社に下記を申し入れます。

１）美浜原発1号の10年延長をやめ、速やかに廃炉にして下さい。美浜4号炉増設計画を中止して下さい。

２）原子力開発を止め、オーストラリア、カザフスタン等で、貴社が投資し、現在操業されているウラン採掘プロジェクト及び、調査が進められている新たなウラン採掘プロジェクトを中止して下さい。

３）国、原子力産業と一体となって進めている原発輸出をやめて下さい。

４）原発被曝労働者の健康管理手帳を交付し、すべてのガンと放射線起因性疾病を労災認定せよ？？？

2010.08.03

ヒバク反対キャンペーン